第４学年１組　実践理科　活動略案

原っぱフォーカス

活動場所：４年１組教室・原っぱ
６月４日（火）１３：５５～１５：００
提案者：風間　寛之

１　本時にかかわる子どもの姿

４月から原っぱ、高田公園、そして創造活動「森にふれる」のフィールドである二貫寺の森で、季節を感じるものやことを探し、観察をしてきた。始めは、シロツメクサやスギナ、モンシロチョウなど、これまでの活動の経験から４、５月に多い生き物を見つけていた。その後、図鑑を手にしたことにより、二貫寺の森のヤマネコノメソウやキクザキイチゲを同定し、その植生について目を向けたり、場所によってそこに生きる生物の多様さに違いがあることに気付いたりしている。

二貫寺の森では、葉が丸まっていて柔らかく小さかったオニゼンマイが葉を広げ、硬く大きくなっていることに気付いた子どもがいた。他にも、赤い実をつけているヘビイチゴと、まだ花を咲かせているヘビイチゴがあることに気付くなど、同じ場所で、植物が成長し変化していることを捉えている。原っぱに生きる生き物を、改めてじっくりと観察することを通して、４、５月との生き物の数や種類の違いに目を向けると共に、同じ生き物でも姿形を変えているものがあることに気付き、季節をとらえる見方・考え方をひろげていく。

２　本時のねらい（本時における自分をつくり未来を拓く子どもの姿）

原っぱの生き物を観察することを通して、４、５月との同異点に気付いたり、仲間と根拠を明確にして変化を生み出す要因について考えたりしながら、自らの季節のとらえをひろげる。

３　本時の構想

○　４、５月と今の原っぱを比較して見つめる

同じ植物でも姿形が変化しているものの例として、二貫寺の森で子どもが見つけたオニゼンマイとヘビイチゴの写真を提示する。これを視点の一つとして、４、５月にも原っぱで見つけたナズナやシロツメクサ、セイヨウタンポポやモンシロチョウを観察するだろう。スギナやモンシロチョウのように、見られる個体の数が変化しているものに目を向ける。セイヨウタンポポのように花から種をつくり、葉だけを残すようになったものに目を向ける。シロツメクサのように微妙な葉の大きさの変化をしているものに目を向ける。さらに、サクランボの果実のように、これまでには見られなかったものに目を向ける。４、５月と比較しながら今の原っぱの生き物をじっくりと見つめることで、季節をとらえる自分の見方・考え方をひろげていくのである。

４　本時の展開

１３・１４M／全４０M　（６５分）

時間	番号；子どもの活動　・；子どもの姿	○；教師の手立て
１０	**１　姿形を変化させた植物の写真を見る** ・二貫寺の森の植物の変化を想起する。 ・原っぱや高田公園で見られないかと考える。	○オニゼンマイ・ヘビイチゴの写真を提示する。 ○４、５月に見つけたものをまとめた板書を提示する。
４０	**２　原っぱで季節を感じるものやことを探し、観察する** ・サクラの木に実がついていることに気付く。 ・ヘビイチゴの赤い実を観察する。 ・モンシロチョウを捕まえて観察する。 ・スギナが見られなくなったことに気付く。 ・セイヨウタンポポを探す。	○観察用のケント紙を用意する。 ○子どもと一緒に観察をし、どのような変化に目を向けているのかを見取る。
１５	**３　観察したものを共有する** ・生き物の姿形の変化に目を向けて話す。 ・原っぱの生き物の数や種類の変化について話す。	○観察したものを具体的に示してもらいながら話すようにする。 ○変化の要因についても目が向くように、類型化して板書する。